

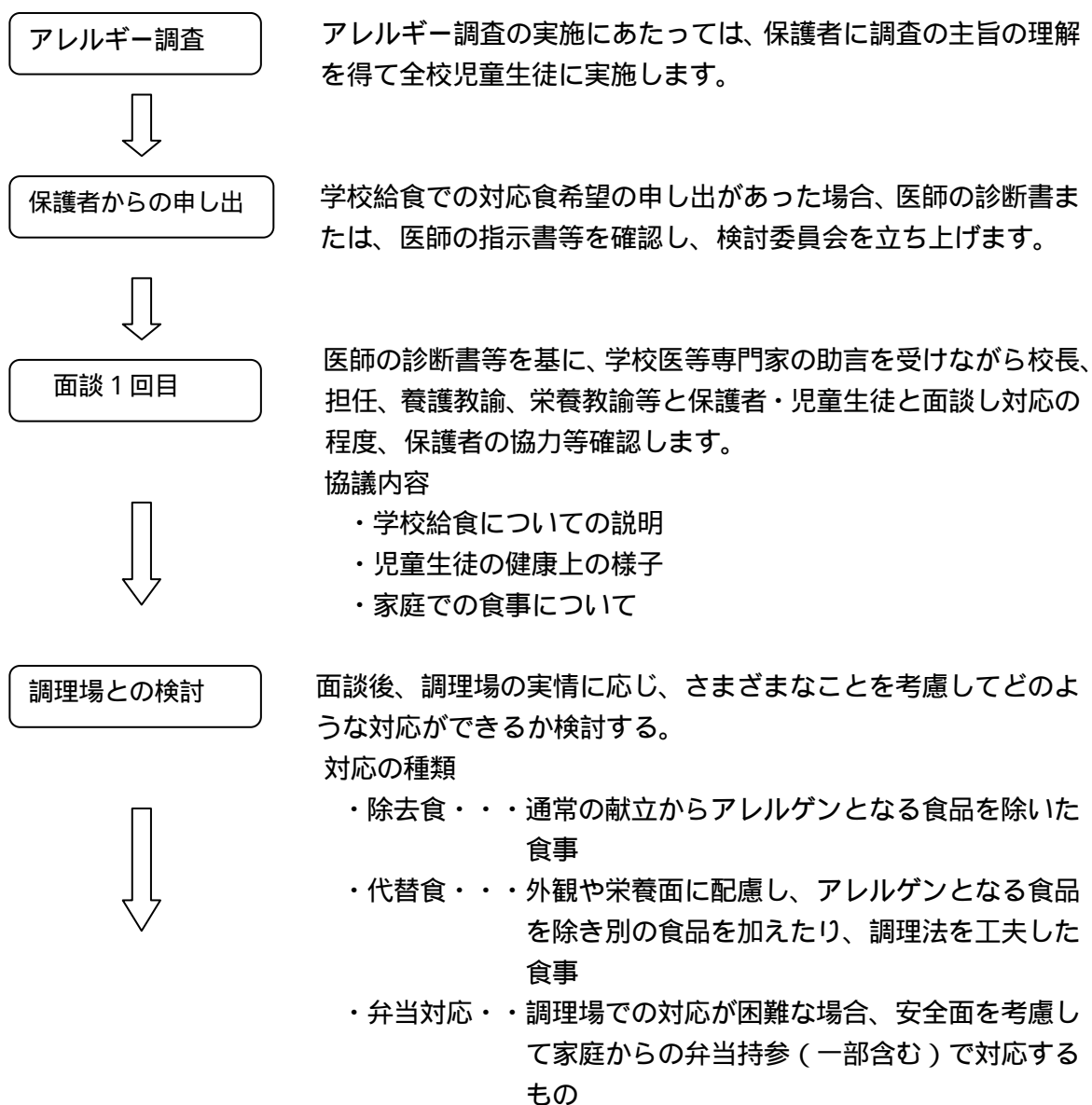
食物アレルギーを有する児童生徒への対応

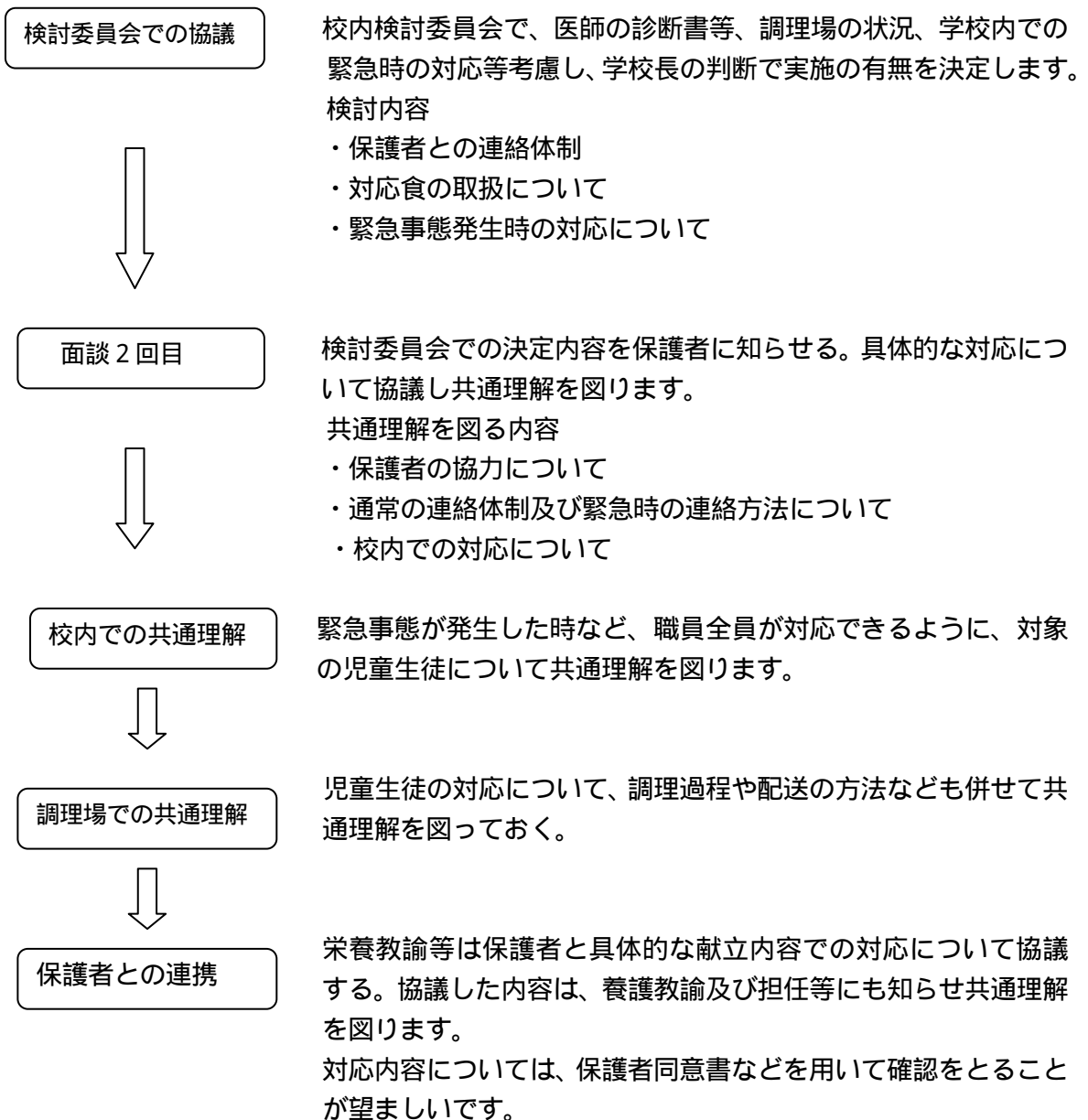
食物アレルギーの定義は、一般的に特定の食物を摂取することによって、皮膚・呼吸器・消化器あるいは全身性に生じるアレルギー反応のことをいいます。環境や生活習慣、食生活の変化に伴い、食物アレルギーを有する児童生徒の割合は増加傾向にあり、原因食物も多岐にわたっています。症状は、じんましんからアナフィラキシーショックのような命にかかわる重い症状までさまざまです。

学校給食は、食に関する指導の中心的役割を担うものであり、このことは食物アレルギーを有する児童生徒にとっても変わりはありませんので、食物アレルギーを有する児童生徒が他の児童生徒と同じように学校給食を楽しめることを目指すことは大切です。

学校給食が原因となるアレルギー症状を発症させないために、学校と家庭、医療機関が連携を図り、体制を整えて組織として対応することが大切です。

1 対応の具体的な流れ





2 実施の際の留意事項

保護者との連携を密にし、円滑な実施ができるよう考慮することが必要です。また、給食時間においては、事故等がないよう留意するとともに、他の児童生徒が不審に思ったり仲間はずれなどの原因にならないように、対象の児童生徒の気持ちを配慮しながら適切に指導することが必要となります。

学校における食物アレルギーを有する児童生徒の対応については、平成20年3月 日本学校保健会からの「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」も参照とすること。